

日本経済のGDPは、1968年にアメリカに次ぐ第2位になり、以来40年間、その地位を守ってきました。その不動の2位の地位さえ、今年2010年中には中国に奪われることになりそうです。日本のGDPは1991年から約20年間成長していません(これを失われた20年と言います)。それでも、40年前に世界第2位になり、1991年からGDPが成長していなくても現在まで世界第2位を維持していることは、1991年までの日本経済が、いかにすばらしい成果を上げたかということがわかります。

20年間にわたりGDPが成長しなかったこと、そして2010年には中国に世界第2位の座を譲ることは、日本人として「くやしい限り」です。

この20年間の日本経済は、やられっぱなしの屈辱の時代でした。

折しも冬季オリンピック(バンクーバー)で、浅田真央さんが韓国の金妍児(キム・ヨナ)さんに負けて2位になりました。真央さんは2位になった悔しきで涙していました。真央さんは金メダル(世界一)になるため鍛錬に鍛錬を重ねたのに演技でミスしてしまい銀メダルに甘んじたのです。真央さんにとってオリンピックとは、参加することに意義があるものでもなければ、思いっきり楽しむ場でもありません。あくまで頂点を目指すもので、そのために鍛錬に鍛錬を重ねているのです。

日本の政治家や経済人は、現在の日本経済の低落が悔しくないのでしょうか。経済の発展なくして、国債の返済はできません。また、日本人を豊かにすることもできません。

今の日本経済は、戦後の日本を再建し、世界第2位まで押し上げた先輩達の遺産を食い潰しているにすぎません。政治家も経済人も文化人も国民も、何もせずに文句を言っているだけです。

過去、経済的に日本を大きく変革させてきた政治家とその政策を挙げると、1つは「池田隼人の所得倍増計画」(1960年代)、もう1つは「田中角栄の日本列島改造論」(1970年代)です。所得倍増計画は10年間で日本人の所得を2倍にし、中産階級層を大幅に増大させる政策で、その後の日本人の生活を著しく豊かにしました。日本列島改造論は、東京・大阪・名古屋の3大都市圏だけが発展したせいで他の地域との格差が大きく開いたことを鑑み、全国一律の生活水準を確保するために高速鉄道と高速道路の整備を全国的かつ大規模に実施し、今日に至る世界で最高レベルの交通体系を確立しました。

今、日本に必要なのは、日本全体の大改革を経済レベルで行うことです。それには、国を挙げてのスローガンと実施計画が不可欠です。日本は、もう一度、新しい価値観で国づくりをする必要があります。

そのためには、「志」を持った政治家、経済人、文化人そして国民の知恵と熱意ある国民的行動が必要です。「日本国民はもっと知恵を絞り、熱意を持って行動し、もっともっと頑張っただけでは駄目ではないか!!」と、なぜそのように国家は国民に問いかけないのでしょうか。休日ばかりを増やして、国民を怠けものにしてしまう国政は正しいのでしょうか。年間平均すると2.5日に1日の割合で休日があるという休みすぎの現状に対し、これ以上休みを増やして、日本をどんな国に導こうというのでしょうか。

このような日本になって悔しくないのでしょうか。真央さんは、世界一になれなかったこと、そして、わずかとはいえミスしたことが悔しくて涙を流していました。日本人の心に、もはや勤勉や努力の精神は消えたのでしょうか!! 成果が出るために本当に鍛錬に鍛錬を重ねているのでしょうか!! 鍛錬の結果、成果が出なかったら悔しくないのでしょうか!!

国家は、目標に挑戦する精神を育成する教育、努力し働くことを尊ぶ教育、成果を出すことの喜びを感じる教育、国家に奉仕する教育…等を、愛国心をもって実施すべきです。

これからの日本経済は、英知と努力に基づき、創意工夫のある経済活動を行わなければなりません。さもなければ、これから台頭してくる中国人並みの所得(日本の10分の1)と同じレベルに甘んじる覚悟をすべきです。「負けてたまるか!! 死んでもやり遂げる精神」でガンバレ真央さん、ガンバレ日本経済、ガンバレ日本人!!

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六 軍 秀 之